

山形中央生コンクリート協組、山形コンクリート圧送協

## 2団体が連携し消火活動

山形市総合防災訓練に参加

山形中央生コンクリート協同組合(渡邊英一理事長)と山形県コンクリート圧送協会(佐藤隆彦会長)は1日、山形市総合スポーツセンター第5駐車場で開かれた山形市主催の「2018年度総合防災訓練」に合同で参加した。

両団体は、昨年7月に山形市と「災害時における消防活動応援に関する協定」を締結。これを受けて本年度は初の試みとして、市内の各団体・組織が災害発生



時に実施する応急対策の確認・検証を行い市民の防災意識の高揚を図ることを目的として毎年開催している総合防災訓練に参加することになった。コンクリート2団体が自治体と一緒に訓練するのは、全国初の取り組みとなる。

当日は両団体から約10人が参加し、プログラムの一環として消防活動連携放水訓練を実施。火災現場での消火活動の最中に、貯水筒

### ポンプ車で水を供給

所に水が無くなった設定で行った。生コン車で約5000立方メートルの水を現地へ運び、コンクリートポンプ車に水を移した後、貯水筒所へとブームを伸ばして水を供給。場所を選ばずに水を確保することができると、さまざまな火災現場での消火活動継続を可能にするものだった。

渡邊理事長は「訓練を通して災害・火災発生時にはとても有効なことだということに分かった。今後も継続して防災訓練に参加し、市民の安心・安全の確保に努めていきたい」と述べた。また、佐藤会長は「通常の施工現場でも両団体は常に連携を図っているが、今回の訓練でその関係性は一層深まった。今後も関係性をより密にしていき、災害時には市民の安全を絶対に守っていく」と力強く語った。